

広島県心不全患者包括ケアネットワーク連携支援事業

第4回 広島県心臓いきいき症例検討会（広島大学病院主催）

令和4年7月14日(木)19:00～20:30 広仁会館にて参集

令和4年7月14日(木)19時から、第4回広島県心臓いきいき症例検討会を広島大学広仁会館にて、2年ぶりに参集により開催しました。テーマを『生きることの全体像をとらえる～心不全患者に対する作業療法士の視点～』とし、教育講演、グループワークによる事例検討を、広島大学病院圏域にある地域医療関係者、33名の参加をもって行いました。



昨年度までは、対象者を地域の在宅支援施設に所属する関係者としていましたが、今年からは新たにネットワークに加わった心臓いきいき連携病院にも拡大し、新たな仲間と学びあう初めての機会となりました。

開会の挨拶を心不全センターセンター長である中野由紀子教授に賜りました。久方ぶりの対面での研修会へ参加された方々への謝辞と期待を述べられ、幕が上がりました。

第一部〈教育講演〉タイトル：『心不全患者における包括的アセスメントの方法』

講師 広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門 作業療法士 塩田 繁人

心不全患者の包括的アセスメントの方法として、認知機能と生活行為に焦点を当て講演いただきました。

認知機能が見落とされると、セルフモニタリングや内服管理など生活行為の低下につながり、この障害で生命予後の悪化や、再入院リスクにつながる事が示されました。

心不全の増悪予防とQOL向上のためには、患者中心の心不全マネジメントプログラムが求められますが、2021年ヨーロッパ心臓病学会が示したガイドラインには、心不全管理プログラムにおける重要な構成要素として「患者主体の心不全管理プログラム」と明記されていることが紹介されました。

患者本人が自身の言葉で語ることの大切さ、地域コミュニティ全体で、本人の希望に合わせた医療の提供および支援を行うことが推奨されること、また、その時に多職種が関わることで、患者が安心して生活し続けられる体制が発展していくと述べられました。

質疑応答ではMMSEとFABの乖離に関する見分け方とそれぞれの介入ポイントについて質問がありました。

MMSEの低下は知的機能とも相関性があり、計算力の低下が特徴的に示されます。FABの低下は前頭葉機能の低下、つまり認知の柔軟性の障害を認め、同じ話をしても概念が違い、自己解釈する傾向が強いことが特徴です。話の内容を、どう解釈したのか確認し、すり合わせるなど工夫が必要との回答でした。

他に、認知機能検査に抵抗性を示す患者への介入の工夫点の質問に対し、関係性をまず作ることを優先するとの回答でした。また、クライシスプラン作成のタイミングは、対象者が疾病教育を受けられた後に行うことが望ましいとのことでした。



第2部 〈事例検討〉グループワーク(7グループ)

50歳代 男性 非虚血性心筋症の事例についてグループワークによる事例検討を行いました。

事例は、家庭での役割を果たすため、約3年間指摘されていた不整脈等原疾患に繋がる兆候を放置し、また長年にわたる喫煙習慣を背景に、初めての心不全増悪による入院加療を要した事例です。



ワークは、①心不全の要因は何か ②最適な支援体制を考え、そのために必要な指導・調整内容を考えよう の2項目を順に、広大心不全センターメンバーをファシリテーターに、30分間行いました。

ワーク終了後には、ファシリテーターより成果発表を行いました。

①心不全要因については、病気に対し、本人、家族共に軽視されて

いたこと、過塩分、仕事内容の過負荷などが挙げられました。

②最適な支援体制の考案では、家族の支援体制の必要性、かかりつけ薬局の協力による服薬管理、クライシスプランを立案し、就業による過負荷を予防しつつ尊厳が守られる生活行動を提案することなどが述べられました。



30分のグループワークは、どのグループも活発な意見交換がなされ、充実した時間となりました。

閉会の挨拶は広島大学病院心不全センター副センター長である三上幸夫教授より賜りました。参加者に対し、グループワークでの活発な発言に称賛の言葉を述べられ、また、ICF のフレームワークの有用性に関する追加情報を述べられました。最後に、多職種が一同に集まり、検討することは、心不全の再発、再燃予防につながることを述べられ、閉会を宣言されました。

参加者の声(研修会終了後アンケートより一部抜粋)

- ・クライシスプランを今回初めて知った。患者教育、またその患者に関わる人との情報共有にとっても使いやすいと思った。活用していきたい(病院、作業療法士)
- ・多職種ならではのそれぞれの立場、専門性からの意見を聞くことができ、とても勉強になりました(訪看、作業療法士)
- ・在宅の目線からのアプローチを学ぶことができた(病院、作業療法士)
- ・医師の知見、薬剤師の関わりについて新たに知ることができて良かった(病院、理学療法士)
- ・介護サービスなど使えない方に、かかりつけ薬局を使っただき、フォローアップする(保険薬局、薬剤師)

コロナ感染が収束しきれない状況でしたが、感染予防策を講じ、大変多くの方にご参加いただきましたこと、深く感謝申し上げます。今回の研修では、心不全患者の包括的アセスメントの方法について、学び、意見交換し、有益な時間を共有させていただきました。

広島大学病院 心不全センターでは、今後も引き続き、感染対策を講じながら、医療従事者向けの研修会等を開催致します。

皆様の積極的なご参加をお待ちしております。 【広島大学病院 心不全センター 事務局】

編集後記
事務局より

